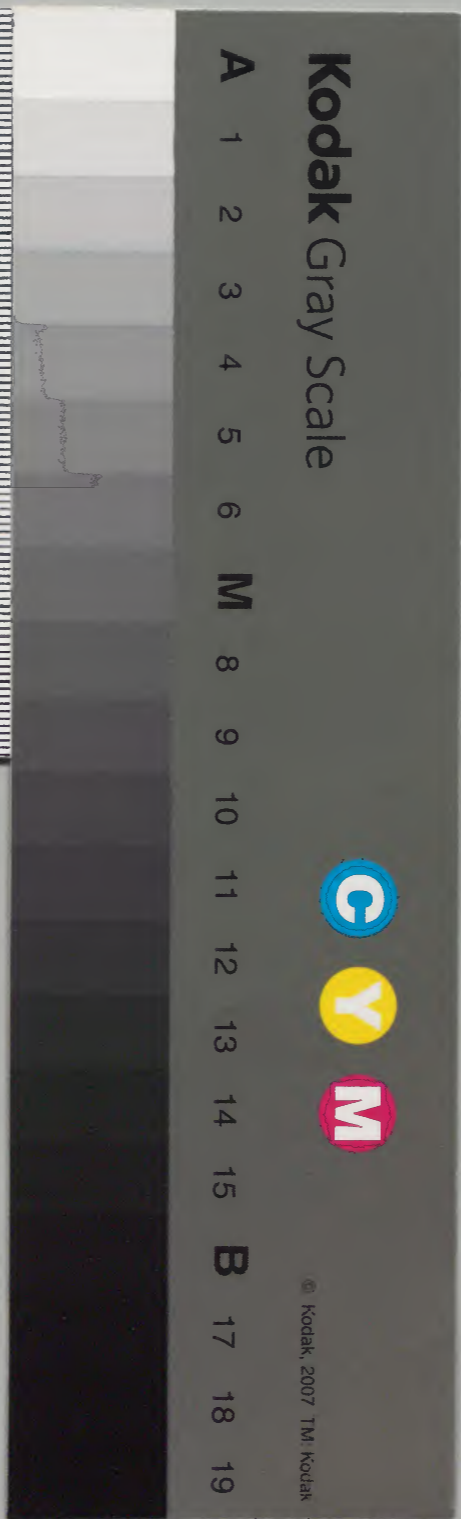


廣益國產考 一七

省務商農
書圖和
號八五七第
冊八共

庫文官政太
和書門
冊架函號
八五七

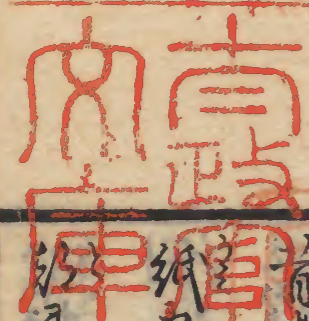
庫文閣內		陸 產
內閣文庫		
番號	和 11017	
冊數	8 (7)	
函號	183 33	



國產考卷之七

大藏永常著

清國產の事と考ふに國に其品を
 多く求むとせむと多し地を以て地を
 國へ入民と謂ふ由は地を以て地を
 首より今に冠たる産物に薩摩の砂糖
 紙九列の蠟燭内の砂知羽の子死後
 織物のい云も更なり今更東より織物

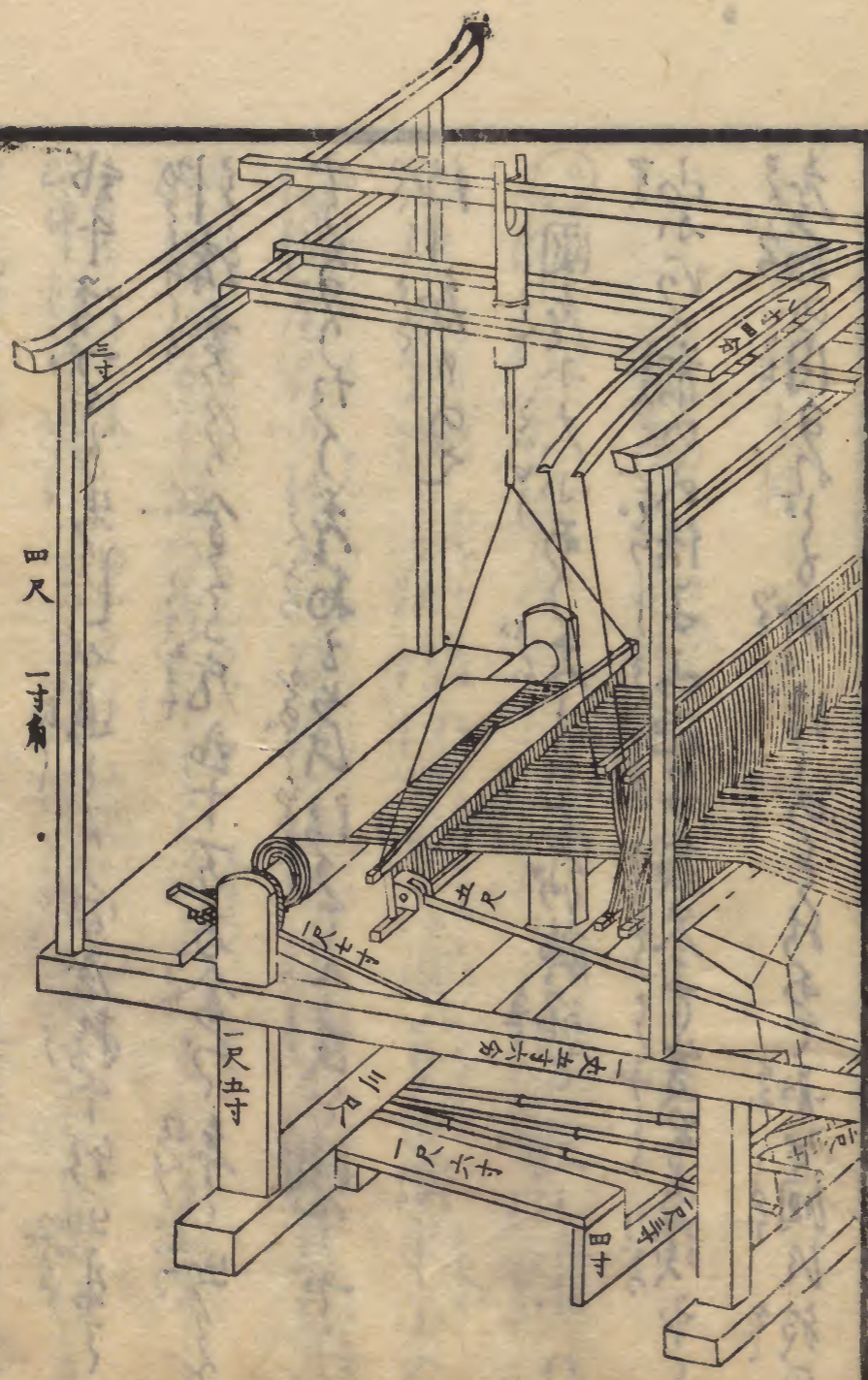
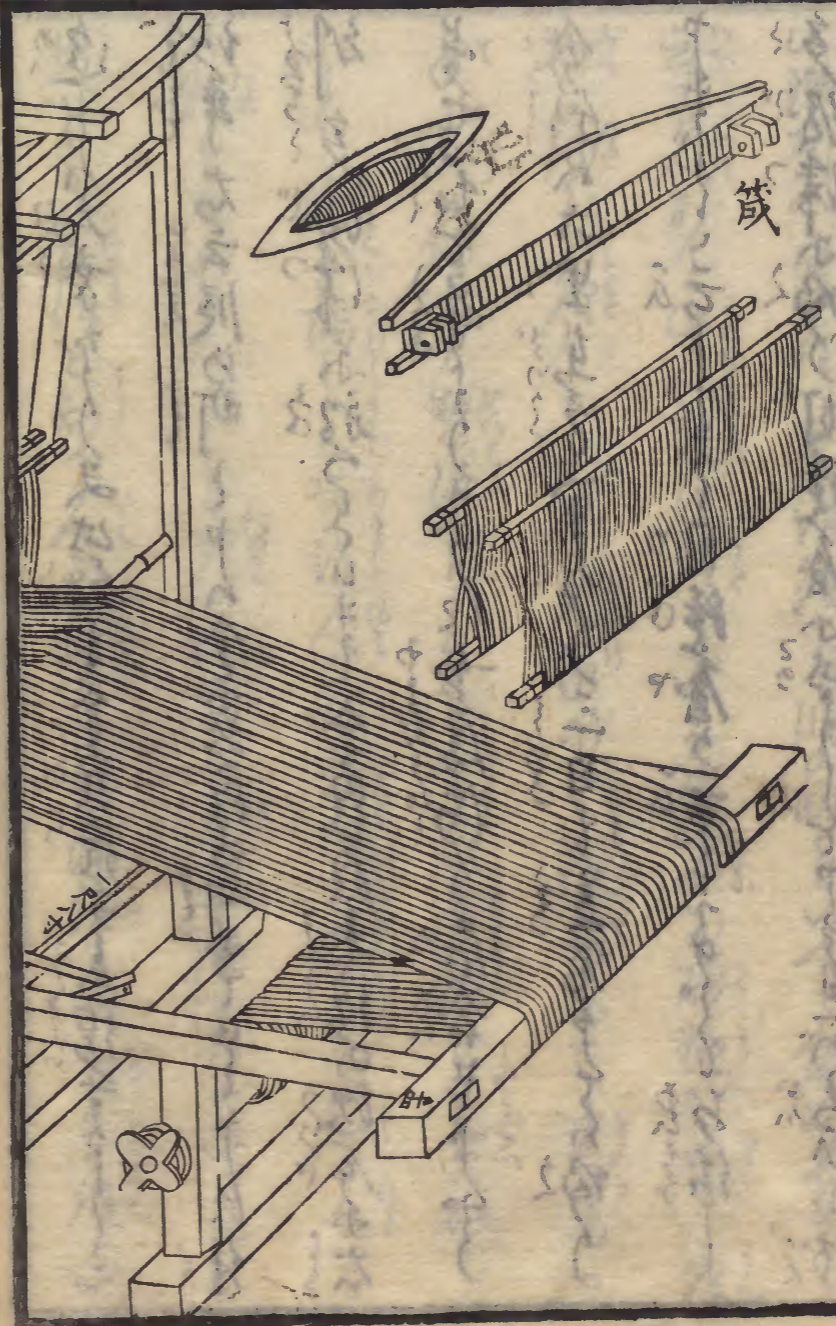


國產考
 卷之七
 大藏永常著

其外より出る産物牧畜のりぬり
 海産物も皆古よりありしものなり
 水産物は種々神々船乗せし今世の
 船隻も大量とかわれり蠟燭燭附と
 なる種々種々種々種々種々種々
 大坂の砂糖同屋の老人等以て
 時産より砂糖百擔程始て
 打寄入れしたるがゆゑに
 今や砂糖は

官屋と兼たり細々に富庶より
 小おけの千石程とて産物と
 是皆始より産物とて
 而て後小地元の産物と
 寛政八年の江戸豊後より
 大坂の目録屋も同船
 小予が砂糖と兼つる
 其外より出る産物

機留機の骨



△右の如く及充織の如くなり

○是と十及續小織の如く

○下給續織扱及丹堅系八十七カセ横系八十二總

メテ百扱ウセウ織あつらん

○中給續織扱及丹堅系六十七總横系六十二總

メテ百之扱之總少て織上らん

○上給扱及續織堅系七十七總横系八十二總メテ

百メ十九ウセウ織上らん

深方之事

○是及之八月方凡百六六扱目並深代部百ノ足と

扱及續小織の如く目方五五扱目並深代凡五

七百ノ

たのどく十五扱と五五織と一選ひん
十五扱あつらん下横あつらんあつらん

○緋頭深方五五人と一日の深上緋扱部五目並

扱あつらん部あつらん六六扱目並たのどく一

深方之係一給あつらん二色は色小深合の如く

一日ふとあつらん目方五五扱上らるらん

糊入之事

○きんふて綴ふ糊とするは一色もれするが目方動や
 又百目出まある○まゝ紙のりれにせまよつては
 一日かまゝ目さしやんでまじり○續りの十は一
 ちうに入る動や又百目づつ出まある

系撰之事

○綴ね及分むる一そそ文の撰よらふてらういこ
 ○まゝ及分むる一そそ文は紙のりせきひきの系般

の綴りやとら動や十のりりり合まぶまよづ作
 分むるをけは仕事ハ危人子紙あて出まある

扇の事

○は紙よりの一日か紙及續するが之續に十五入り
 ○まゝ及分むるのりれにせまよつては

巻方の事

○紙及續するが動やあてまめ小巻よひ○まゝ及づ
 せいの動やあてまめ小巻よひ

一、さきより六百と改む文、さきより七百と改む文

是と十及、續小織の節

は、續小織の節、上へ

は、續小織の節、上へ

○は、續小織の節、上へ、甲辰年のお歴、仕入、唐一、
あ、さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、

○は、續小織の節、上へ、甲辰年のお歴、仕入、唐一、
あ、さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、

○は、續小織の節、上へ、甲辰年のお歴、仕入、唐一、
あ、さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、

○は、續小織の節、上へ、甲辰年のお歴、仕入、唐一、
あ、さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、
さきより、さきより、さきより、さきより、さきより、

中、終、さ、及、の、後、

か、せ、保、り

代、部、百、一、代、部、百、一、代、部、百、一

一 〇

代六十六

一 〇

代四十一

一 〇

代三十一

一 〇

代七十一

一 〇

代九十一

一 〇

代五十一

一 〇

是と改反讀之鐵ひ筋

此六費又

上給

一 〇

代三十七

一 〇

代百

一 〇

代七

一 〇

代六

一 〇

代五

一 〇

代七

一 〇

代七

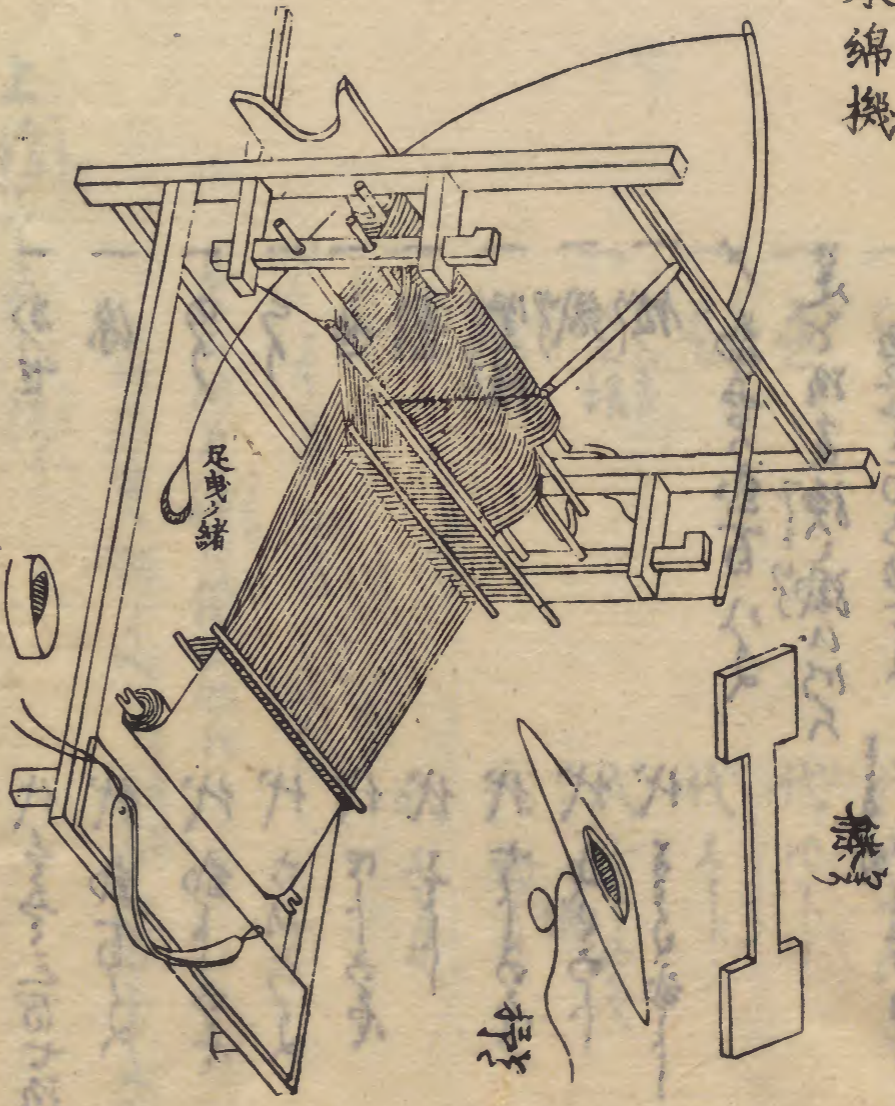
一 〇

代三

是と改反讀之鐵ひ筋

此六費又

木綿機

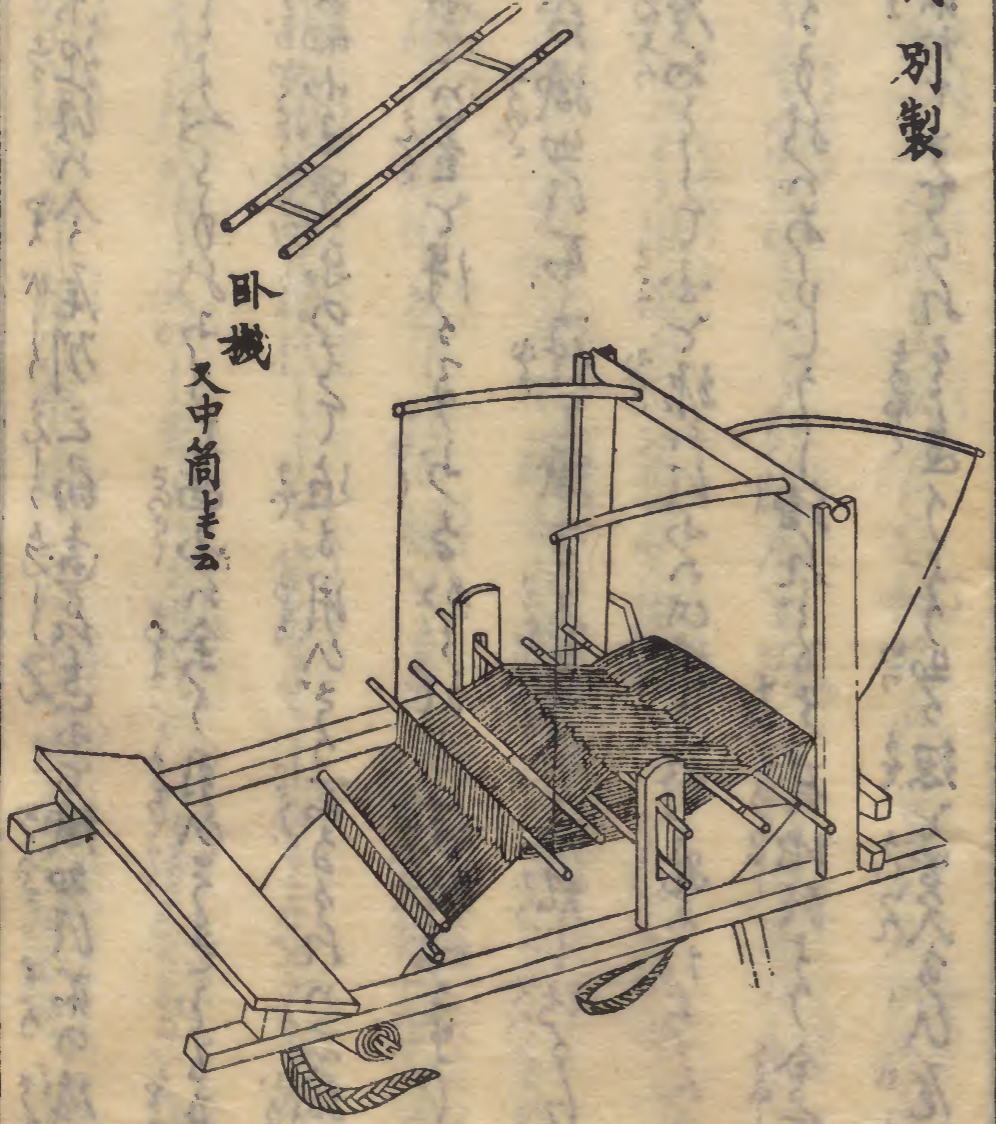


足曳緒

拵

機

同別製



卧機

又中筒上云

赤糸の糸今尾別之品遠近まで織物に用ひたるは
 終とよぶるものありて西の糸より用ひたるは
 道前少は要束の糸にて近も用ひざるものあり
 固めての糸と得るものありたるは
 り織物に用ひたるは織方業の糸にて
 小産物として糸と結ぶものあり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは

糸織女二人織りの扱ひと糸織物の扱ひと
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは
 糸の糸のありしうり織物に用ひたるは

和年の通り産いすとすぐ
細くして根を去り植す

○植場下のをまひす

以てあふ直兒下の教拓記

して植むる候長あり

幾年ともそののまれのたか

石毛の地を穿れて植す

○植す地而入る一畝に細の

肉桂

植

図



てくるして一間すねるを植す

るらんわりののそめり作きども植たるあつねり

日天四つあつねりも植す

あつねりてあつねりてあつねり

あつねりてあつねりてあつねり

あつねりてあつねりてあつねり

あつねりてあつねりてあつねり

あつねりてあつねりてあつねり

あつねりてあつねりてあつねり

○七八年日ふ此根の行例を土と務根と伐り
業種屋人賣又之年も立て行例を伐り
皆乃ぐり伐り肉柱の作りて大判とほり
ぬ係一沖年貢のかり地地の敷地のせむ
〜〜そのさう〜

蜂と書て窓ととる事

蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事
蜂と書て窓ととる事

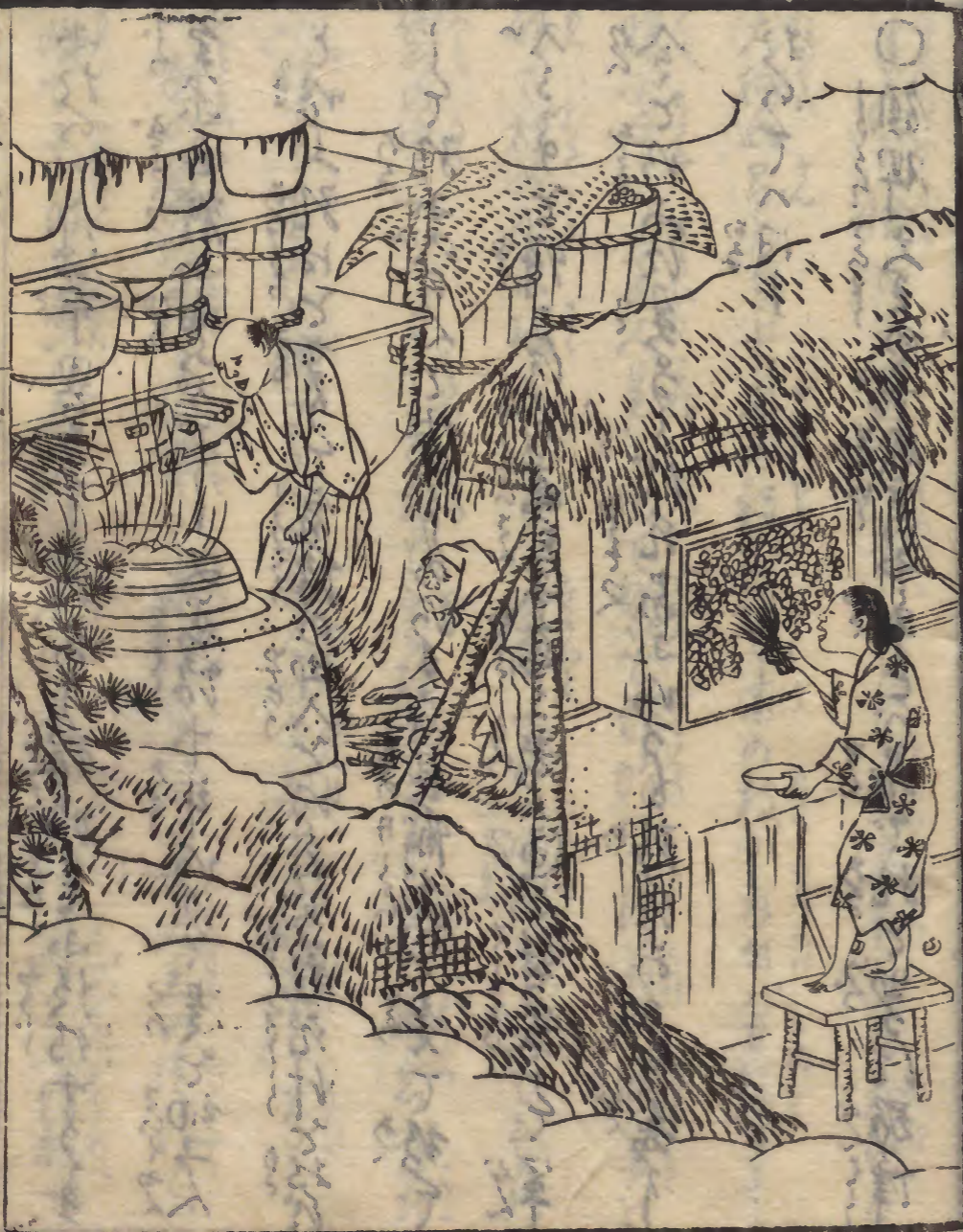
少も造り其中に酒も砂轉りあまらうさかけ蓋ふ
孔と多のり大なる樹の洞中に結一窠のかさか
少が蜂のついで其中心に結一窠のかさか
しと蜂のついで其中心に結一窠のかさか

○脾の若送りやう けおの大山の端必日がかた九初

あてら九すやう けおの大山の端必日がかた九初
或の解様不様を高く流気もりのぬきのおの香の有
あつらうー木の香もと用るがうーとー又ね

脾の向終る人の橋の通る終つての障あり障を厚ふ入
 小の下より滑入るり令新脾の下通る益るに脾の形或は
 正面あり横斜ありいて大抵日一を認めら子と生る又春
 と終へ又子此舎也の花汁と終ふ又子成育して花で
 出入するに乃ぶる終の孔へ又室と終ふ凡室をうめ
 ハ甘味ありさあまう吐痰て日終る耳する日毎小進して
 燄ふ人の酒と造る等一既終孔ふみつる時其香を閉
 一清一氣成清はく水一障の教多れば其味も亦あり

○障ハ小なり大とさみ歩斗マルハ千小似て若ふ思ふ也
 と若く群て花の汁とさるもの薬と造り薬と造
 ものへ花の汁とさるの時入替る其好とあらむ其ふ
 云々くまが申れた大とといひて大なる障一ツあり其
 其の居るは其障の葉乃中の一書とみ人是と産しつふ
 其とれ其の世々終るまに終つてえよう花汁とさる
 其く毎日弱障めつりくは花汁とさるて其の障は是一若
 小じつものくちるにいと産る障障あるは其小障一若



蜂蜜

製す
者

小ねのしは希異ありのあり
 又其跡十斗ありて是と細人
 と呼ぶ孔はとちりて其跡の出入とありたれ若死けをたれ
 して孔へ入んとするものあり其解意と云て記す
 入るすと作さばは再三小意ある者逐て警殺して軍
 令とゆふに是をくば凡あふりて跡にありて是あり
 ねのしは日ト
 ○領碑大皇の子成育せむと云ふが死を記しつに那碑

大抵はより十間の約ふて木の枝ふれ竹の葉を
 暖小なり高人は是と逐て袋と那跡のふれ取て羽等と
 以て枝のふれ掃がててに切るせば一團のふれはてそれ
 袋の中へむつるをさるめてきれば一團と用さるる
 小移し高ふと脚と云れと云人の分あするに等し
 一團の袋はるるに早く死後りのありて大皇の足はふ
 漬てそるるのふれと云ふは又原の葉は死後りの付る那跡を

孔へ入るも成ゆるさば年ひ経く是とす一教しそ不忠
 と西久る人悲愧して歌海と流せり又ハツるんざとて
 登ハツ時中なる時このうびおのゆへ形して稍羽根とさる
 びるひり二月以降のち散する竹かの王一那ごの中ふ必一ツ
 あり葉中に王一ツつり竹のりりも一ツこの竹を商人を
 けで其翅と湿度バ陰ゆへち散せび皆えの葉中へかつる
 ぬふ年くさあつとつら

○割罍百零 是と採ゆの葉を夏のたけつ個むめと十

ち甘芳の成熱した採んと欲する時れせとあつと
 叩んば子牌の信ふ移る其時葉の二寸二と切採よあが一
 と採せば再びその葉を補ひ葉のどくかく採と歳なといふ
 るありあはれぬれ牌もれ葉とて熱さるとは ○そ外
 土陰の密枝採ゆめれどもまに晒れ

一箱ふ高ふのれ紋り客も二十斤 百二十 客端

能りのねり

○客端 一名黄蜡 是其端といふおみ即蜂の脚と

代九浪計百七拾五目 以全計千八百五

一推草 百箱 他一箱拾五目入

代九浪百五目 以全計六百六拾五目計五目

一葛粉 千俵 他比斗入

代九浪四拾五目 以全計六百六拾五目計五目

一木算 拾箱

代九浪拾五目 以全計百八拾五目

一蕨粉 百六拾俵 他比斗入

代九浪七拾目 以全計百八拾五目

一五倍子 八千斤 他唐用

代九浪拾五目 以全計六百六拾五目計五目

一秋苔 八千斤

代九浪五拾目 以全計六百六拾五目計五目

一蜂窩 千斤

代九浪四拾目 以全計六百六拾五目計五目

一漆

代元銀六両目 以金百両

一竹皮 以万両目

代元銀六両目 以金八百兩之代

一山菜種子 九二百石 計心あつたその代

代元銀五両目

一一年魚 九二千石

代元銀三両目

但神秋葉等取取りかき

今十 代元銀三両目

代元銀金千二百八両七目 以金銀万二千百兩

此代 棕桐 串柿 桑白皮 二丁菊

厚朴 楸硝 鶏卵 和菜種

此代 大坂真外代 出 賣 佛 中 玉子

代元銀七両目

以金百兩之代

代元銀三両目

一 燧草

北畠 四万斤
大山 一万二千斤

代元限百廿日

一 蒙

代元限百廿日

一 綿

九六百本

代元限百廿日

二 口ノ部百廿日

合千六百廿七廿日

合千六百廿七廿日

合千六百廿七廿日

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

右去年一郡より

